まちづくり交付金事後評価原案を公表します

まちづくり交付金事後評価の公表について

村では、平成十六年度に「まちづくり交付金都市再生整備計画」を策定し、国土交通省の事業認可を受けて「まちづくり交付金事業」に取り組んでいます。

事業期間は、平成十七年度から十九年度までの三か年で、今年度は最終年度になっています。

「まちづくり交付金」は、地域の歴史・文化・自然環境などの特性を活かした個性あふれる「まちづくり」を実現し、地域の再生を効率的に推進することにより、住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的として創設された交付金です。

この事業では、事業実施前の段階でまちづくりの目標、指標の設定を行い、事業最終年度に事後評価を実施して数値目標の達成状況などの確認と今後のまちづくりの方策を作成することとされています。

事後評価の原案を作成しましたので、皆さんに評価原案をご覧いただくこととしました。

事後評価の目的

事後評価は、まちづくり交付金がもたらした成果などを客観的に診断し、成否の要因を分析して、今後のまちづくりを適切な方向に導くとともに、住民の皆さんに分かりやすく説明することを目的としています。

実施時期

事後評価は、まちづくり交付金の交付終了年度に実施します。ただし、事後評価を行う際に計測できない数値指標は、「見込み」の値により評価を行い、翌年度以降にフォローアップを実施します。

まちづくりの目標に添った指標を設定して取り組んできました

まちづくり交付金の目標
地域住民と来村者の交流のある住みよい住環境の創造

住みよい住環境の整備により、若者の定住化促進と過疎抑止のふるさとづくり ⇒ **定住人口の増加・居住環境満足度の向上**

指標１　定住人口（住民基本台帳により定めた地区内の人口数）
・若者の定住化やＵ・Ｉターン者の増加を図り定住人口の増加を図る。
従前値　240人（平成16年）
目標値　280人（平成19年）

指標３　居住環境満足度（住民に対するアンケートを行い居住環境満足度を調査）
・広場の整備や体育館へのアクセスを容易にし、住みよい住環境を整備し、地域住民の満足度を充足させる。
従前値　20％（平成17年）
目標値　50％（平成19年）

活気あふれる地域力再生を図り、来村者を含めた人の交流が活発に行えるにぎわいのある地域づくり ⇒ **交流人口数の増加・景勝地の観光客数の増加**

指標２　交流人口（宿泊体験施設利用者や農村体験者数）
・地域住民の交流を増やし、村外からの誘客数の増加を図る。
従前値　7,000人（平成16年）
目標値　9,000人（平成19年）

指標４　景勝地の観光客数（江竜田の滝の観光客数の増加を図る）
・江竜田の滝の遊歩道を維持管理し、観光客を増やし地域活性化を図る）
従前値　2,000人（平成16年）
目標値　3,000人（平成19年）

まちづくり交付金を活用した事前の将来ビジョン

課題	将来
人口減少が進み過疎化の加速	公営住宅建設により住民流出を減少させ、過疎化対策を図る
地域の拠点であった小学校が統合され廃校となり、管理・防犯面でも地域住民に不安を与える	地域力を向上させ、小学校統合による枯渇化を防止させる
来村者との交流となる農村体験をするような環境や施設が整っていない	農村体験施設整備や地域住民と来村者の交流を充実させる
地域住民や子供たちが集える場（広場や機会）が不足している	広場の整備や地域住民同士の交流を促進し、地域連携の再構築を促す
景勝地（江竜田の滝など）の整備や補修などが行われていないため、来村者の減少が伺える	景勝地の維持活動や補修を行い、来村者を増加させ、地域の魅力を再発見する

村で行ってきた事業

●公営住宅など整備事業
渡瀬団地（４棟８戸、１棟５戸）

●道路整備事業
村道渡瀬団地線

●地域生活基盤施設
高質空間形成施設整備事業
（広場）

●高質空間形成施設整備事業
（江竜田の滝遊歩道の橋）

●地域創造支援事業
農村体験施設整備事業
旧渡瀬小学校取壊し
メモリアル館の改修
村道大戸中江竜田大橋線の整備に伴う用地買収

渡瀬団地［公営住宅など整備事業］

渡瀬広場・トイレ［地域生活基盤施設］

評価結果のまとめ

●現段階による指標への到達度

指標		単位	達成度 事後評価	達成見込みの有無	効果発現要因 総合所見
指標１	定住人口	人	×	無	公営住宅などの建設により新たな定住者が増え、地区の少子化に大きく貢献はしたものの、地区民の転出や死亡が大幅に伸びてしまったため、この事業により大幅な定住人口の増加を図ることが出来なかった。
指標２	交流人口数	延べ人	○	有	渡瀬地区地域づくりの会によるイベントを開催、地元住民による愛好会の活動なども盛んになった。また、地区民同士の交流も増加された。
指標３	居住環境満足度	%	○	有	新たな建物や広場などの整備により地域全体が明るくなり、地区住民の満足度が向上した。また、地元を改めて見つめ直す機会となったようで、地元愛の強化へと繋がった。また、安心な居住環境の創造を地区民自ら考えるようになった。
指標４	景勝地の観光客数	人／年	○	有	地元住民も足が遠のいていた景勝地をボランティアを募り維持管理することで、愛着が湧き、景勝地の様子が気がかりで、自分たちも度々訪れるようになり、観光客などに出会い・ふれあいを大切にした。また、住民が口コミでＰＲするなど、意識が高揚されてきた。
その他の指標	公営住宅の入居率	%	○	有	里山景観に囲まれたこの地区に公営住宅が建設された事で、都市住民などには新鮮な地域として親しまれ、ＵＩターン者に人気を得ており、地元住民には、村外へ転出する若者の歯止めをかけるクッションとなっている。 また、入居者と地元住民との交流も活発に行われているため、今までにはない明るい団地形成となった。

●実施過程の評価

評価項目	実施内容	実施状況	今後の対応方針など
住民参加プロセス	事業交付期間中、地元のサポーターを募り、「渡瀬地区地域づくりの会」を立ち上げ、住環境整備事業について協議を重ね、計画や適宜事業の成果についての評価や改善を図ってきた。	当初計画どおり実施できた。実施頻度［17年・12回　18年７回　19年３回程度、計22回］ 実施時期（平成17年６月～平成20年３月） 実施の効果［定期的に事業の進捗状況・事業内容の協議を行うことが出来たため、地元住民の関心が高まり今までのハード事業の取り組みを行うことができた。また、事業が地元に密着して進行したので持続的なまちづくり体制の構築に関与できた。］	ハード事業実施の際に地元に密着した事業進行を図るため、このような住民参加プロセスを取り入れていくとともに、今後「渡瀬地区地域づくりの会」の継続を支援し、ハード事業ではない、施設運営やソフト事業にも関与していき、より良い地域づくり事業を展開させていきたい。
持続的なまちづくり体制の構築	①都市部のＮＰＯ団体と地元の任意団体が連携し、農業体験講座を開催 ②地元の任意団体が地域ボランティア活動の案づくりを始めた。	①・②とも予定していなかったが、構築された。 ①農業体験講座を月１回開催し、都市住民との交流を行なっている。 ②渡瀬地区地域づくり検討会で、地区内のゴミの話が度々持ちあがり、地域ボランティア活動を行う、任意団体を立ち上げる話合いが行なわれ、景勝地の維持活動や地域高齢者の生活支援・ゴミ拾いなどの計画を策定中である。	①村では、近年「有機の里づくり事業」と題して、村内の農業において、減化学肥料・低農薬栽培化を目指している。この事業の関連から、子供たちや都市住民との交流を目的とする農業体験講座を推進し、より良い地域振興が図られるような事業を支援・指導などしていきたい。 ②このような地域づくりを考えている団体を支援・発展させＮＰＯ団体として活動できるような支援を行っていきたい

今後のまちづくりの方針

住民指導型の事業の推進

地域づくりを交えた事業進行が、地域力の向上に直結しており、これからますます過疎化がすすむ中でも、生活の質の向上を図るため地元住民のニーズを捉え、より密着した事業を実施していきたい。

地域コミュニティー事業の支援と定住人口の維持

公営住宅の整備などの事業により若者やＩターン者が移住することができた。しかし、過疎化がますます進む中、老後・田舎暮らしをもっと楽しいものに演出できるように、住民に対し地域交流やイベントの継続をより促し、地元愛を定着させて、住民と手を携えながら、過疎化を食い止めるための意欲の高揚を図っていく。

また、Ｕ・Ｉターン者の誘致事業にも傾注し、移住した方には、積極的に地元に溶け込んでいけるような支援を行なっていきたい。

有機の里づくりの展開、任意団体と連携した農業体験の充実

有機の野菜を栽培しながら、都市住民や子どもたちに農業を伝授するイベントの開催や遊休農地の活用をする任意団体の支援を強化し、より積極的な事業の展開が計られるような考案をしていきたい。

また、施設の維持管理などについても、より良い活用の仕方を地元住民と考え、地域づくり事業への活用やイベント経費の削減に関与していきたい。

また、事例発表会などを開催し、住民の地域づくりに対する意欲を向上させていきたい。

景勝地維持活動の支援

景勝地「江竜田の滝」については、地域づくり検討会で、補修内容を検討した結果、地元住民によるボランティア活動で遊歩道を整備・復旧する機運が高まり、年二回の実施により、遊歩道をとてもきれいに整備することができました。このような景勝地や村管理施設についても、負担の度合いも考慮しながら、地元住民が中心となった維持管理活動を行うように推進し、環境保全を図っていきたい。また、このような維持管理活動を行う任意団体の立ち上げを推進・支援し、事業の見直しを図っていきたい。

次のような意見を参考に、「まちづくり交付金事業」の事後評価についてのご質問・ご意見などがありましたら、役場地域整備課（☎４９-３１１６）までご連絡下さい。

その他、地域づくり活動やこの事業にこんな声が寄せられました

芳賀正樹さん（渡瀬字江竜田）より

旧渡瀬小学校跡地の利用として、「渡瀬団地」や「広場」が整備されよかったと思います。あとは団地付近の「道路」整備が必要だと思います。今後の課題としてもらいたいと思います。

このまちづくり交付金事業とは関係ないかもしれませんが、20・30代の世代を中心とした渡瀬のソフトボールチーム（渡瀬ベアーズ）ができ、ここしばらく利用されていなかった「渡瀬地区のグランド」が整備され、地域の人が集まってスポーツができる環境になりつつあると思っています。

これは渡瀬地区の活性化にとっては、大きなプラスになると思います。今後もいろいろな形で地域の施設が利用できるように整備されていけば良いとおもいます。

平成19年5月実施のアンケートより

ボランティア活動が素晴らしいと思います。協力性が強まり、周辺がきれいになってきたことは、素晴らしいと思います。これからも人の繋がりと和を持ってやって頂きたいと思います。（70代女性）

住民各層の意見を集約する意味での地域づくり検討会はよい刺激になったし、まず大切な地域づくりの出発点であったと思う。住民参加の事業を計画し、多くの住民の参加で事業を展開できたことの意義は大きい。地域づくりの振興施策では、地域振興費の人的・財政的な視点で捉えなおし、魅力ある地域づくりやユニークな活動に大幅に村が支援していくことが大切かと思う。（60代男性）

事業そのものはよい取り組みだと思いますが、村外に仕事に行っていると、村内のことがさっぱり情報として入ってこない。総合して、村民と行政の情報・思いなどの共有が一番大切だと思います。（30代女性）

地域活性化という事に関しては、若い（20・30代）人達が「良い」と思うことがなければ、なかなか活性とは行かないのでは。住宅を建てても、携帯電話やインターネットなどで不便を感じることがたくさんあります。（30代男性）

近年、長期の休日に帰るだけですが、帰るたびにやはりこの村に愛おしさを感じます。緑の多いこの地域を守り、自然破壊が進むことのないように村内外に呼びかけて欲しいと思います。（20代女性）